

# 社会調査データを巡るデータライフサイクルマネジメント

田中 康裕 データ科学研究系 特任研究員

## 社会科学系データを巡る新しい潮流

### データの共同利用

- 医学・生物・理工学系データを中心にオープンアクセス・オープンサイエンスによる研究成果(論文)の公開だけでなく、データの公開や社会での共有が世界的・社会的潮流となる。
- 公的研究費を活用して実施された研究に関しては、広く社会で研究成果やデータを共有すべき→社会科学系データ(アンケート調査データなど)についてもデータへのオープンアクセスを推進すべきという流れに。

### 新しい社会調査の形

- Webアンケート調査は調査会社に委託して行うことが一般的。
- 調査全体の実務面を調査会社がマネジメント。研究者は研究倫理面のマネジメントに注力。
- Webアンケート調査ツールを活用して、研究者自身が直接Webアンケート調査を実施することが可能に。
  - ✓ 研究者だけではなく、学生なども容易に社会調査を実施可能に。
  - ✓ 回答者の募集手段も多様化。
- 調査全般を研究者自身がマネジメント。特に研究倫理面だけではなく調査対象者からの同意取得や個人情報保護制度への対応など実務面での対応を迫られる。

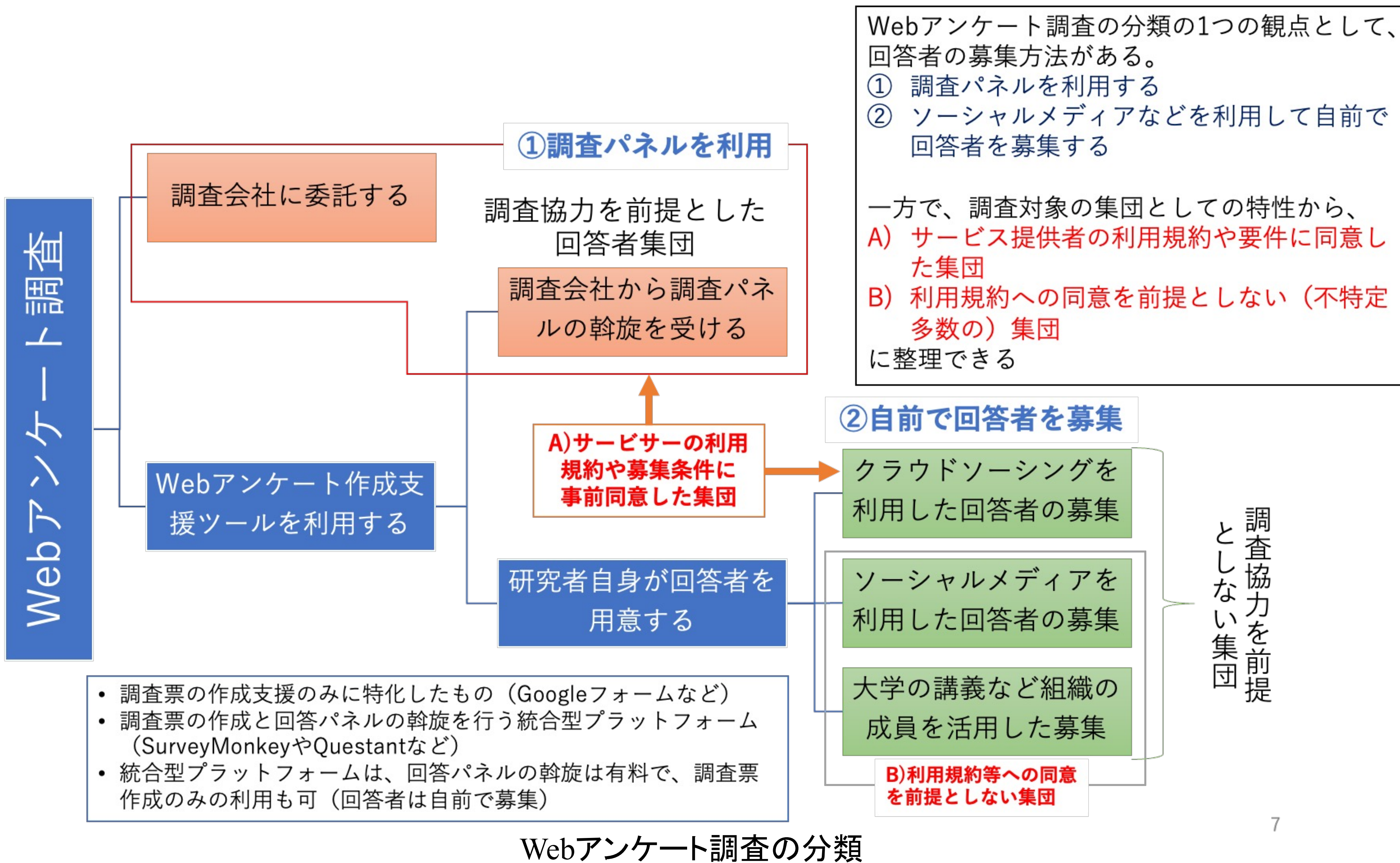
## 社会調査の実施プロセスの観点からの課題

### Webアンケート調査の実施

- 調査会社を通さずWebアンケート調査を実施することで、研究者だけではなく、学生が卒業研究などで利用するなど容易に調査を実施できる環境が整っている。
- 一方で、こうした調査会社に委託しない調査を実施する事で、研究者自身が個人情報の保護など調査の様々な実務的マネジメントへの対応を迫られる。
  - 調査に関する同意取得の在り方や取得したデータの管理方法。
  - 調査設計(個人情報の取得やセンシティブな設問に関する同意取得・質問方法など)に関する責任。
  - 国際調査を実施する場合に、海外法令(GDPRやCCPA)への対応。

### データを取り巻く新たな社会制度

- データサイエンスの隆盛は、『データ』の価値を高めると共に一部巨大プラットフォームによるデータ寡占の懸念を生じさせる→『誰のデータ』なのか？
- EUのGDPR制定を契機とする個人情報・データ保護制度の再構築。
- 社会調査においても特にデータの共同利用を前提に社会調査プロセスを新たな個人情報保護・データに適応させることが求められる。



## Data Life Cycle Management ~社会調査プロセスとデータライフサイクル再構築の必要性~

### データ公開・共有を前提とするデータライフサイクルの構築

- 研究の企画段階から収集・生成するデータの公開・共有を前提とした計画(DMP:データマネジメントプラン)を設計する。
  - ◆ データマネジメントプランとは
    - ✓ どのような研究開発データが創出、取得又は収集され、それがどのように利活用される予定であるかを把握するためのもの
    - ✓ 創出、取得又は収集する予定のデータの種類・内容・規模等や、当該研究開発データの利活用の方法等を可能な限り具体的に記載する。
- DMPでは研究データを『公の財産』に位置づけ、一定期間経過後適切な形で広く第三者への公開
  - データの公開・共有について段階を設定。第三者への公開を原則とすると共に、第三者への公開が適切ではないデータについては、制限共有データとして、第三者との共有を促進する。
- オープンサイエンス・オープンデータは社会の潮流であり、今後人文・社会科学系学術研究においても、データ公開・共有を前提としたデータライフサイクルマネジメントを研究者自身が検討し、実施することが求められる。